

令和6年度 少年の塔慰霊祭

期日：令和6年9月21日（土）



「少年の塔慰霊祭」は、公益社団法人上伊那教育会の平和教育研修事業として位置づけられています。「上伊那各地より満蒙開拓青少年義勇軍として満州に渡り、再び祖国の地を踏むことのできなかった青少年の御霊を慰霊し、永遠の平和を祈念する」という趣旨で、毎年行われている、教育会にとって大切な事業です。

慰霊祭に先立って行われた整備作業により整えられた環境の中で厳かに行うことができました。作業にご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

今年度の慰霊祭は、一般の方にも参加者を募り、正副会長をはじめとする上伊那教育会役員を含む33名で執り行うことができました。

また、慰霊祭の中で平和教育研修として、元上伊那教育会長の矢澤静二先生より満蒙開拓青少年義勇軍及び少年の塔に関するお話をいただきました。

追悼の言葉

太平洋戦争終結から、七十九年の歳月が過ぎました。満蒙開拓青少年義勇軍として中国大陸に渡り、志半ばにして荒野に散った九十一名の若い御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。
「満州は日本の生命線」と言われ、昭和七年に満州国が誕生しました。計り知れない資源と広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国内の人口・経済問題を解決すると同時に、軍事的にも北の守りを固めようとする国策の一環として計画された満蒙開拓。貴方方 青少年義勇軍もその一翼を担わされました。

国家総動員体制が強化されていく中、上伊那教育会も、教師自身率先して大陸に渡り、また上伊那義勇軍父兄会を組織するなど、この国策に積極的に関わり、昭和十二年から終戦までに郡下で六百名ほどの義勇軍を送り出しました。そして、昭和二十年八月九日 対日 戦線布告した当時のソ連軍が次々に大陸を南下、「王道楽土・五族協和」の夢は一瞬にして消え去り、関東軍の武装解除は大混乱を極め、多くの青少年義勇軍が若き命を落としていくこととなりました。

教えられるまま何の疑問も持たず純心に生き、そして、異境の地で若き命を散らせた九十一名の貴方方。
今、台上に立ち遙か遠くを見据える少年は、何を見つめ、どんな想いでいるのでしょうか。

現在の世界情勢や国内の状況に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ません。私たちは今、ここに頭を垂れ、過ぎ去りし日々を思いを寄せると同時に、戦後七十九年過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和への努力を改めて誓います。二度と、同じ過ちは繰り返しません。

九十一名の若き御霊よ、安らかに眠りください。

令和六年九月二十一日

公益社団法人上伊那教育会

会長 赤羽 隆

慰霊祭の様子



矢澤静二 元会長による
平和教育研修会



参列者全員で
黙祷、焼香を行いました

